

える患者に容体を聞き、内視鏡などで胃の様子を観察する。かなり表面が荒れている。胃潰瘍ですなと言って胃腸薬を処方する。これが今までの対症療法だとしますと、最近の医学では、もっと“本来の姿”を意識した治療が重視されつつあります。先ほどの患者は、薬の服用で一時的には痛みがとれても、またすぐ痛みます。どうもストレスがたまっているらしい。ストレスと様々な症状との因果関係は完全には解明されていなくても、ストレスを取り除くように胃だけではなく精神面も含めて検討し、バランスのとれた生活を指導する。老人医療にしても、病気になってからのことより、病気にならないようにするにはどのような生活をすべきなのか、トータルに検討する時代を迎えています。地球環境という病みつづめる患者についてもこの機会に、“本来の姿”を意識した対策が対症療法と併せて検討されるべきではないでしょうか。外洋を利用した二酸化炭素の削減にしても、例えば一次生産だけを人工的に増加させるという方向ではなく、本来は一次生産も含めてどのように炭素が循環していたのかを解明することを重視する姿勢、そして様々な海洋の生態系を利用するにしても、全体のバランスを崩さない姿勢が大切になると思います。痛み（二酸化炭素）を取り除こうと与えた薬のおかげで、生まれた子

供が障害を負ったなんてことになっては目もあてられません。

地質調査所はもともと地球上の諸現象を総合的に検討する視点を持った研究機関です。また堆積物の解析を通じて、人間の影響がなかったころの地球環境を復元することができます。今後、対症療法ではない地球環境の治療法を検討するうえで、地質調査所の今後の役割は益々重要になるものと思います。

文 献

Mann, K.H. (1988): Production and use of detritus in various freshwater, estuarine, and coastal marine ecosystems. *Limnol. Oceanogr.*, 33 (4 part 2), 910-930.

ホイッター, R.H. (1979): 生態学概説—生物群集と生態系—(第2版). 培風館, 東京, 363p.

Williams, P.M. (1991): Scientists and industry reps attend workshop on measuring DOC and DON in natural waters. *U.S. JGOF NEWS*, 3, 1-11.

YAMAMURO Masumi (1992): Present studies on the carbon cycle in open ocean.

<受付: 1992年1月29日>

地学と切手

オーストリー エルツベルグ鉱山切手



エルツベルグ鉱山はオーストリー南西部のアルプス山中にある菱鉄鉱の鉱床である。スタイエマルクのアイゼンエルツに近いエルツベルグと称されている。鉱床の発達するエルツベルグ山は海拔1,532mの高さであり、基底は硬砂岩からなり、その上を厚い古生代の石灰岩が覆っている。この石灰岩が交代作用を受けて、大規模な鉱床を形成している。石灰岩→アンケライト [Ca Fe (CO₃)₂]→菱鉄鉱の鉱化作用が良く観察される。この鉱床は付近にあるひん岩と関係があり、その後火成作用に

よる熱水液（炭酸鉄を溶かした）が石灰岩に作用したものと考えられている。空洞の中にはサンゴ状のアラゴナイトを産することで知られる。（加藤武夫「新編鉱床地質学」による。）

切手は1.50 sは1971年発行の産業国有化25年記念、4 gは1946年発行の普通切手で、いずれも露天掘風景が画かれている。3.50 sは1984年発行でサンゴ状アラゴナイトが示されている。

(P. Q.)